

現況分析における顕著な変化についての説明書(教育/研究)

法人名 国立大学法人熊本大学

学部・研究科等名 自然科学研究科

1. 分析項目名又は質の向上度の事例名

分析項目Ⅲ 教育方法

2. 上記1における顕著な変化の状況及びその理由

○顕著な変化のあった観点名 授業形態の組合せと学習指導法の工夫

平成 19 年度に採択された大学院教育改革支援プログラム「学院科学技術教育の全面英語化計画 (GRASIUS 計画)」を、平成 20 年度から更に拡充させた結果、外国の大学教員を招聘して行う英語の授業科目の大幅な増加 (資料 1)、海外インターンシップ派遣の拡大 (資料 2)、海外の大学院とのダブルディグリー (双学位) 制度の新設置 (資料 3) 等、大学院教育の国際化が大きく推進した。また、学生の多様な要請に対応するとともに、イノベーション創出に必須となる多様な思考力を涵養するため、総合科学技術教育センター (GJEC) において企業からの客員教員による授業拡大を行った。この取組の結果、平成 21 年度文部科学省の組織的な大学院教育改革推進プログラム「イノベーション創出のための大学院教養教育 (AGEIN)」及び文部科学省科学技術振興調整費イノベーション創出若手研究人材育成プログラム「異分野融合型イノベーション推進人材の育成」の採択へと繋げることができた。

上記のとおり、平成 20 年度以降の取組による「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」の改善状況は極めて顕著である。

資料 1 総合科学技術教育センター (GJEC) における客員教員数 (教員数と科目数は同一)

	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	合計
産学連携関係客員教員数	7	11	12	30
国内大学院連携客員教員数	4	5	4	13
国際共同教育客員教員数	5	13	25	43
合計	16	29	41	86

出典：総合科学技術教育センター (GJEC) 運営会議資料から抜粋

資料 2 海外インターンシップ派遣人数

	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	合計
博士前期課程	2	9	19	30
博士後期課程	2	4	6	12
合計	4	13	25	42

出典：自然科学研究科プロジェクト支援室資料から抜粋

資料 3 ダブルディグリー締結大学

締結年月日	大学名
平成 20 年 9 月 17 日	スラバヤ工科大学 (インドネシア)
平成 21 年 6 月 23 日	高尾第一科技大学工学院 (台湾)
平成 21 年 9 月 11 日	南台科技大学 (台湾)

出典：自然科学研究科教務委員会資料から抜粋

現況分析における顕著な変化についての説明書(教育/研究)

法人名 国立大学法人熊本大学

学部・研究科等名 自然科学研究科

1. 分析項目名又は質の向上度の事例名

分析項目 V 進路・就職の状況

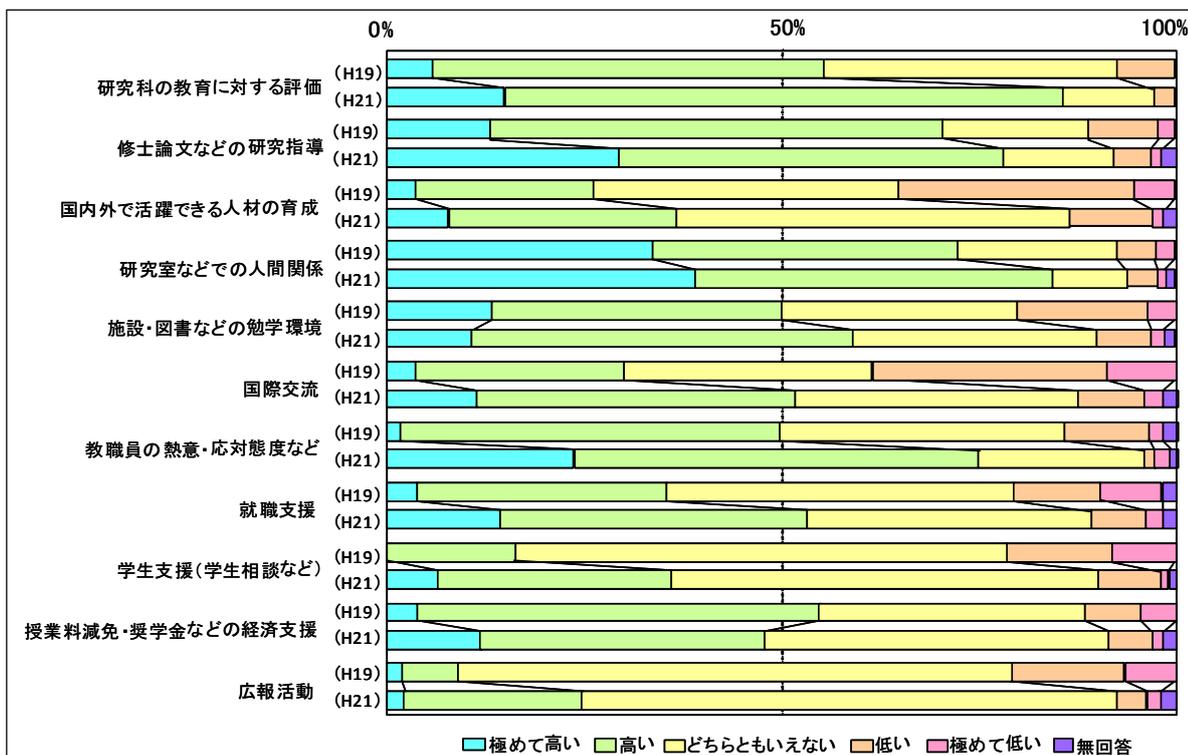
2. 上記1における顕著な変化の状況及びその理由

○顕著な変化のあった観点名 関係者からの評価

平成 21 年度修了生に対してアンケート調査を実施し、平成 19 年度の結果と比較を行った。その結果、すべての指標で「極めて高い」、「高い」の評価が平成 21 年度で向上している（資料 1）。特に、「研究科の教育に対する評価」で、平成 19 年度に比べて、「極めて高い」、「高い」の評価が大幅に上昇し、平成 21 年度では、その割合が 80%以上となった。また、国際交流についても「極めて高い」、「高い」の割合が平成 21 年度は大きく増加し、50%を超えている。これは、平成 19 年度に採択された大学院教育改革支援プログラム「大学院科学技術教育の全面英語化計画（GRASIUS 計画）」の大きな成果である。また、教職員の熱意、対応も大きく向上し、平成 21 年度はその割合が 75%まで上昇した。さらに、就職支援、学生支援についても満足度が大きく向上した。これらは、自然科学研究科における FD 活動等を通じた教職員の意識改革の成果によるものである。

上記のとおり、平成 20 年度以降の取組による「関係者からの評価」に対する改善状況は極めて顕著である。

資料 1 平成 19 年度及び 21 年度修了者アンケート調査結果の比較



出典：平成 19 年度及び平成 21 年度修了者アンケート調査結果を基に作成